

令和5年石橋北小学校 第2回学校運営協議会議事録

令和5年11月22日(水)10:35

於 校長室

【本日参加者】13名

・学校運営協議会委員(8名)

大塩宗里 青柳庄一 竹内美千子 野口文夫 寺内利之 齋藤幸紀
橋本織 齋藤佳代子校長

・地域学校協働活動推進員 橋本俊明

・事務局 金久保貴子教頭 増淵敦子教務主任

【欠席者】2名 斉藤司朗(学校運営協議会委員) 澤田 貴典(地域連携教員)

日程確認

1 日程確認	10:35~10:40
2 授業参観	10:40~11:15
3 協議	11:25~12:00
4 給食試食会	12:00~12:45

開会

- 1 委員長あいさつ
- 2 校長あいさつ
- 3 協議内容等(進行・・・会長)
 - (1)石北小の教育
 - ・授業及び今年度の様子、これまでの取組
 - ・学校運営上の課題
 - (2)学校評価について(学校評価の項目、評価方法等)
 - (3)質疑
 - (4)その他

11:38

協議(1) ☆石北小の教育(授業及びこれまでの取組)について

校長 【児童の実態について】

- ・学力調査の児童のアンケート結果等や日頃の様子から説明します。
- ・児童は、明るく素直で、思いやりがあり、下級生の面倒をよく見ます。清掃や奉仕活動等もよく働きます。真面目ですが、主体的な取組はやや苦手なところがあります。
- ・読書、宿題への取組もできている児童が多いが、「学習は楽しい」と感じている児童は、半数以下。「不思議だな、なぜだろう」と感じて学習に興味・関心をもっている児童は多くいます。
- ・学力学習状況調査は、全国・県平均より高い結果が出ています。夏休みに、全職員で、結果の分析を行い、成果と課題をもとに、授業に生かせるように研修会をもちました。
- ・とちぎっ子学習状況調査と全国学力・学習状況調査における児童への質問の主なものを紹介します。
- ・基本的な生活習慣についてですが、「毎朝、朝食を食べている」は、ほぼ毎朝食べていますが、児童の中には、朝食を食べないという児童もいます。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については、学年が上がるにつれて低くなっています。
- ・「自分には、よいところがある」では、どの学年も県平均を上回っており、自己有用

校長 家庭、地域が同じ方向を向き、お互いに協力し合い、子どもたちを育てていくことが大切であると考えています。今後ともよろしく願いいたします。

11:54 ☆学校評価について

協議(2) 教頭 ・今年度大きく変わった点は、石橋小中学校区で学校評価の内容を統一させていただいたことです。評価項目については、資料をご覧ください。

・評価内容については、石橋小中学校区の校長会で内容の検討を行いました。本校については、今まで行ってきたものが基盤としてありますので、内容統一について大きく変わった点はありません。色分けに関しては、黄色の部分が学習に関するもの。水色が心に関するもの、ピンクが体づくり。その他として緑色になっています。紫については、石橋小中学校区で統一して子どもたちの変化を見ていこうという項目になっています。今後、継続して評価を積み重ねていくことになります。

・白い部分は、本校独自の内容になっています。各校それぞれが独自の評価をとっていこうという自由度があります。本校では、一つ目として、「先生が、一人一人を大切にし、熱心に児童の教育にあたっている」二つ目として、保護者、教職員対象に、「学校は適切な教育方針を立て、教育活動を進めている」三つ目として、中学年、高学年、保護者、教職員対象に、「一部、教科担任制は児童にとって良いか」という設問になります。四つ目として、保護者、教職員対象に、「学校は互いに学び合い、助け合う雰囲気があるか」という項目になります。

・今までは、紙で答えていただいていたのですが、昨年度から児童は、タブレットを用いて答えていました。今年度は、更に進めて児童のタブレットを家庭に持ち帰り、保護者にもタブレットで回答していただくことになっています。

・タブレット活用によって、結果が集計できます。結果もグラフになって表すことができ、教職員の働き方改革にも繋がってくるものと思われま

11:59

協議(3) ☆質疑

会長 ・協議の(1)石橋北小の教育と(2)学校評価の説明をいただきました。それを踏まえて、協議委員の皆さんから本日の授業の感想やご意見をお願いしたいと思います。

委員 ・授業を参観して、子どもたちがのびのびと授業に励んでいる。また、環境も素晴らしいと感じました。

・地域連携の研修会に参加して、皆さんにお伝えする機会が無かったので、少しお話ししたいと思います。

・我々は、この協議会で何をしたら良いのか？また、学校への協力が成されていないのではないかと考えています。

・研修会に参加した際、講師の講話の中で、ある学校のアンケート結果について考える機会がありました。生徒数約130名に質問した内容の一つに、皆さんの将来は？という問いに対し、3人が明るい。約30人が分からない。約100人が暗い。という結果だったということでした。この結果について、全部の学校に当てはまるわけではないが、子どもたちの状況を我々大人が受け止めなければならないと思います。家庭が悪いのか？学校が悪いのか？地域が悪いのか？ではなく、誰かがこの結果について受け止めていかないと、よそ事ではないのではないかと思います。

・是非、この協議会で話し合ったことが生かされる場所があると良いのではと考えています。

・中央審議会の資料をもとに、1地域と共にある学校づくり 2子どもも大人も学ぶ合うために、地域が連携した学校と家庭・地域の学び 3学校を核とした地域づくりの推進について是非、コミュニティスクールを作ることができたなら、更に地域と学校が円滑になるのではないかと考えます。学校は、もっと地域を頼って良いのではな

- 委員 いか。また、学校は、もっと地域に開放しても良いのではないかと思います。まずは、5・6人の大人が集まれば、そこからがスタートでよいのではないかと思います。
- 会長 ・貴重な意見をありがとうございました。素晴らしい内容がでましたが、それに関わるものでも意見がありましたらお願いします。
- 委員 ・今年度から協議委員をしているが、委員として何をしたいのかよく分かっていません。学校側も何を希望したらいいのかという課題もあるかと思います。
 ・この半年の間に通学路の草や石垣についての話がありました。自治会の方の仕事もしています。どうぞ遠慮なさらずに、学校以外のことは、連絡していただければ頼りにしていただきたい。対処していきたい。
 ・北小を卒業された保護者の方と話す機会がありました。当時、子どもたちと一緒に作業をしたということを知りました。さつまいも掘りの後、農家の方がわらを運んで来て、焼き芋を焼いて食べる活動をしたそうです。現在は、勝手に敷地内で燃やす等は難しいですが、事前に市と消防署に連絡を取って許可を得ればできるものと思われる。草むしりや遊具のペンキ塗り等、子どもたちも一緒にやっていたということも聞きました。保護者が学校に来て一緒に作業をすればより学校が身近なものに感じるのではないのでしょうか。
- 会長 ・自治会の方でも活動されている委員さんの心強い意見をいただきました。
- 委員 ・委員として、何をすべきか分からない状態です。遠慮無く委員を活用してください。
 ・今日の授業参観を1時間で全部の教室を回らなければならないので、時間的に限られてしまうのもっとじっくり参観できると良いと思います。とても興味深い授業をされているので、1時間を通して参観できるような計画でも良いのではないかと思います。
- 会長 ・私たちは、学校運営協議会の委員です。以前は、評議委員でした。協議委員となると、学校と共に協議する前向きな組織となりました。学校の運営に対して、意見を述べるのは難しいことですが、感じることを意見として出していきたいものです。
- 委員 ・現在、スクールガードをしています。通学路の環境整備は、行政の絡みが大きく、困り事も、すぐには対処できないのが現状です。年度末にならないと整備されないことも多いと思います。子どもたちの安全面を考えると、行政を頼るのではなく、運営協議会としての役割ではないかと思います。児童の皆さんが、常に良い環境で通学してもらいたい。また、良い環境で勉強してもらいたい。と言うのが私の思いでもあります。
- 会長 ・基本は、子どもたちが良い環境の中でのびのびと学習や遊びができることが一番だと思います。
- 地域学校協働活動推進員 ・学校の教職員は、働き方改革を進めているところですが、校務が多く、現実問題、大変苦勞しています。石北小は、学校支援の組織がしっかりしているということが何よりの強みだと思います。最初に委員さんから出た学校地域支援本部みたいなそんな組織ができると良いと思います。実際、国としても、地域学校協働本部という形でコミュニティスクールの中にそういう組織を作っていきたいと思います。本校は、石橋地区の中でもそれが一番早くできそうだなと思っています。
 ・校長だよりを毎月拝見しています。大塩会長が、合唱の指導をされていることや、ボランティアの方が高木の剪定までされていることなど本校の情報が伝わってきます。まずは、やれることを地域の方にやっていただければ。それが何より学校として助か

地域学校
協働活動
推進員

ります。先ほどからみなさんから出ていますように、こんなことができますよ。と言うことを校長・教頭先生に伝えていただきたいです。また、焼き芋会を例に挙げると、学校運営協議会の皆さんが提案みたいな形で実行委員会などが組織できれば、PTAと連携ができるのではないのでしょうか。あまり、学校を頼ると学校が新たな課題を抱えることになります。できれば学校運営協議会、そして、そこから派生したPTAと連携した組織が立ち上がって、新たな行事が行われるようになると、地域活動に子どもたちが参加できるようになるのではないのでしょうか。

・地域学校協働本部のような組織が、毎年、現在の学校支援の4団体の集まりである連絡会が行われています。それを基盤として立ち上げられると良いのではないかと思います。すぐに立ち上げられるとはいかないと思いますが、みなさんのバックアップが感じられますので、そんな方法で進めていくと良いのではと思います。

委員 ・小学校を卒業された保護者から、話を聞くことがあります。お子さんが在校中によくボランティア活動で参加していたようで、卒業してしまうと協力したくてもその場がないという声を聞きます。子育ても一段落して何かできることはないか、そういう地域の方にも学校支援の誘いの連絡があれば参加したいと考えているようです。在学中よりも、時間的にも参加が可能という方がいるようです。何か、学校と繋ぐ方法があれば良いと思います。

委員 ・地域の声が聞こえたということだけでも嬉しい話です。今、ボランティアの世代交代が難しくなっているので、少しでも興味がある方が参加していただけると良いのではないのでしょうか。

委員 ・来年度の新生徒は18名と聞いています。今後のPTAの運営や人事について、執行部でも話し合いをもちました。保護者の負担軽減も考慮しながら、今後のPTA活動を検討しなければならないです。特に、PTA廃品回収については、地区によって取組の違いがあります。ボランティアの方が手助けしていただけるようであればその力を借りて行いたい。また、やり方等についても見直す時期に来ています。これまでのやり方を全て変えるのではなく、実情に合ったやり方についてもボランティアを含め、考えていかなければならないと思います。

会長 ・皆さんからたくさんの貴重な感想や意見が出ました。ありがとうございました。

教頭 ○次回の予定
・第3回：2月9日（金）

12:40
給食試食
会